

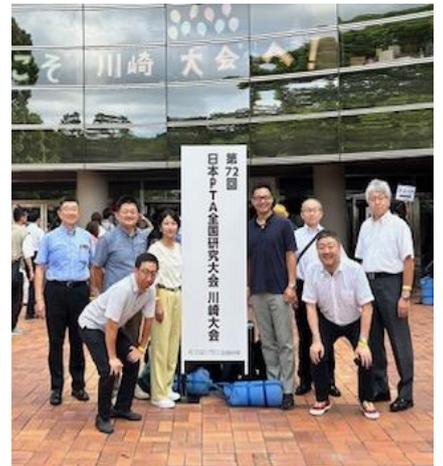
# 第72回日本PTA全国研究大会川崎大会 報告

《大会スローガン ウェルビーイングの実現を、川崎の地から～活かそう「縁」の力～》

## 【大会1日目】

### ウェルビーイングとは！？探究心をくすぐるアウトプットな川崎大会1日目

第72回日本PTA全国研究大会川崎大会に参加しました。全国から約6000名が集まり、道P連からは8名が参加し、ウェルビーイングについて学んで来ました。1日目は様々な角度から7名の講師による講演、その都度隣席4名と意見交流をして多様な考え方を理解してより深く考えます。心に残ったのは『誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向けて』の講師、西野博之氏のお話です。「子どもは未熟者でも半人前でもない、日本の職人気質から生まれた言葉を子どもにも当てはめていること。」子どもの人格を尊重する大切さを学びました。ウェルビーイングとは良い状態以上に、自身が幸せ！と思う心です。大人も子どもも共に「最幸」になるためには、主体的で対話的で深く考える人に成長したいです。そのためにはPTAの役割も大きいと感じました。全国の会員さんとの意見交流は大変有意義な時間となりました。



【報告：北海道PTA連合会副会長 谷渕友美】

## 【大会2日目】

### 研究大会2日目のテーマは、『自己肯定感を高める』

講演の先生方のお話では、こどものウェルビーイングには、「良好な親子関係」と「自己肯定感を高めること」が大事で、何よりも叱らずに「ほめること」が大切だとのことでした。ほめるのが苦手な日本人への具体策として、家族の写真を撮る・家族の幸せな写真を部屋に飾る「ほめ写」の紹介がありました。写真を見て、幸せな瞬間を思い出したり、その時の話をしたりすることで自己肯定感が高まるのだそうです。実際にPTAで行った活動では、家族写真を見ながら幸せそうに活動するこどもの姿を見て親の自己肯定感の高まりも実感できたと報告されました。

こどもが楽しみ、その姿を見て親が幸せを感じる、それがまさにウェルビーイング。その学びの機会、実践の機会を作ることができるのがPTAなんだと気づきをいただきました。

PTAは親子のウェルビーイングのための活動だと誇りを持って活動していきます。

【報告：北海道PTA連合会副会長 南川達彦】